

2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成: 2025年 6月 23日

施策番号	施 策 名	徹底した情報共有と町民参加の促進	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり		
			政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり		
	主 管 課	政策推進課		課長名	有澤勝昭	内 線 242
		施策関係課		総務課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針			対象	意図		結果		
住民と行政が情報共有し、主体的なまちづくりへの参加を促進します。			町民	・町民と行政との情報共有を行い、まちづくりに自発的に参加してもらう		町民のまちづくりへの参加意識を高め、町民が主役となったまちづくりを進める		
成果指標		説明	単位	策定期(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度目標
①	行政情報の公開や説明責任が果たされていると思う割合	住民意識調査	%	76.1 (R3)	76.0	76.1	/	/
②	行政からの情報発信方法が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	88.6 (R3)	86.5	88.4	/	85%以上
③								
④								
成果指標設定の考え方		①前期計画よりも実績値が下がっており、現状の改善が必要であることから、段階的に85%を目指す。 ②全町民に様々な手法で情報を届ける観点から、85%以上を目指すのが妥当と考え、85%以上の維持を目指す。						

2. 施策の事業費

	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	21,065	22,819	22,039	/	/

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察						
①2024年度の成果評価(前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した		想定される理由	前年度と比較し、微増ではあるが、①、②ともに、指標は上昇しており、成果は向上したと判断する。		
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった			②については、目標値85%以上に到達しており、①の目標達成に向けても、ホームページのマイナーチェンジ、町の公式LINEのリニューアルなどの継続により目標到達は可能と判断する。		
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した			②についても、目標達成に向けた取り組みが継続的に行われ、目標達成は難しくなったと判断する。		
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる		根拠(理由)	②については、目標値85%以上に到達しており、①の目標達成に向けても、ホームページのマイナーチェンジ、町の公式LINEのリニューアルなどの継続により目標到達は可能と判断する。		
	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しく、①の目標達成は難しくなったと判断する。			③事業の見直しや新規事業の企画実施をして目標達成は難しい		
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をして目標達成は難しい			③事業の見直しや新規事業の企画実施をして目標達成は難しい		
(2)施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括						
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	広報事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業			
③事務事業全体の振り返り(総括)	・広報事業 ⇒ 令和3年5月から開始したLINE公式アカウントは、登録者数が順調に増加しており、効率的な情報発信手段であることから、効果的に活用していく。		④事務事業全体の振り返り(総括)	・広聴事業 ⇒ 団体別・テーマ別のめむろ未来ミーティングの実施回数は例年並みであった。また、冬季巡回型ミーティングは参加人数が減少傾向にあり、実施時期や場所の検討が必要である。		
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)						
担当課評価	町の行政情報の発信については、ライン・フェイスブックの浸透もあり、策定期より前進したと判断する。				A	
					B	
進捗結果					C	
					D	
進捗結果					E	

A: 実現した
B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した
C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した
D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した
E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>「施策を取り巻く状況」 デジタル技術を活用した情報共有・町民参加が求められている一方で、対面型のニーズもあり、当面は、両手法を併用する必要がある。</p> <p>「今後の予測」 自分の好きな時に、手軽な方法で情報を入手する手段を拡大していくことが成果の向上につながるものと考える。</p>
	<p>この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> LINEを活用した情報発信については、評価を受けることが多いが、一方では、アナログ的な手法を残してほしいとの意見もある。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> 広報紙では、詳細かつタイムリーな情報を伝えきれないため、ホームページとの連動を進める。 SNSの積極的な活用とともに、アナログ的な手法も併用し、多くの町民に情報を届けられるように進めていく。 LINEについては、町民との情報共有に有効な手段であり、町民視点での全庁的な活用を進めていく。 対面式のめむろ未来ミーティングについては、イベント時など、人が多く集まる場所で実施する方法も検討する。
--

6. 経営戦略会議(府内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> 地域担当職員というシステムがありながら、そこは機能していないのではないか。 「5. 施策の認識の課題」については、具体的な時期を明記して進めていただきたい。 ・デジタル技術の活用が難しい高齢者が取り残されることがないように、多様な情報の伝達手段、特にアナログ手段も活用しながら配慮した方がいいと思う。 ・成果指標の数字は高いが目標との乖離があることから、発信自体は充実しているが内容は課題があると思う。 	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					